

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2017

3

vol.231



県酪農研究会 農業生産法人 雪割牧場 田中 進氏

第64回 福島県酪農青年研究連盟主催 酪農発表大会・酪農講演会を開催!!

発表者の渡辺幸子さん(左から2番目)、田中 進さん(左から3番目)

福島県酪農青年研究連盟(会長 佐藤正仁)が主催する第六十四回酪農発表大会・酪農講演会が二月二十四日(金)郡山市日和田「福島県農業総合センター」にて、会員・関係者一〇〇名に参加頂き、開催されました。

この大会は、県内各地の優秀な酪農経営の成果を発表し、それに基づく意見交換を行い、これによって酪農経営の合理化、そして近代化を推進して、本県酪農発展に資することを目的として開催しています。

開催に先立ち、福島県酪農青年研究連盟佐藤正仁会長より、「酪青連の事業の中でも六十四回を迎える酪農発表大会を今年も開催することができ、心から感謝している。第一回大会は昭和二十七年から開催されており、歴代の発表者をみると親子二代は



もちろん、ご夫婦で発表するなど歴史の長さを感じる。さて、酪農情勢は酪農基盤の脆弱化が進んでいることもあり近年、和牛やF1の子牛の価格が高値取引されており、その影響もあり初妊牛高騰、育成牛の減少など、先行きが見通せない状況ではあるがたくさんの若い方々が参加し集まっており、皆さんと高いモチベーションを持ちつつ、福島の酪農を元気にしていきたい。今回の二人の発表者は、福島県代表として、さらに東北代表として、全国を目指し頑張ってほしい」と挨拶し、福島県農林水産部畜産課志賀茂課長(代読:鈴木正裕主幹兼副課長)、福島県酪農業協同組合宗像実代表理事組合長より来賓祝辞を頂き、発表に入りました。

第64回酪農発表大会

「中・高年よ大志を抱け

〜ポーランドへの

思いを馳せて〜」

県北酪農研究会

渡辺 幸子氏



はじめに、県北酪農研究会渡辺幸子さんの「中・高年よ大志を抱け〜ポーランドへの思いを馳せて〜」と題し、私の人生を決めた大きな出来事が二つあり、一つ目は「はたちのこうざ」というサークルで、私が委員長を務め、そのときに副委員長をしていたのが主人で、様々な活動を通して、一緒にいる時間も長くお

互い意気投合して、二十一歳の時に結婚。三人の子どもに恵まれました。結婚して酪農家に嫁ぎ、就農当時は両親も現役で働いていたため、日中はパート、朝と夕は家の仕事の手伝いと忙しく毎日を送っていました。そのときは、デントコーンの収穫、台風の時期と重なり手刈りでの作業を余儀なくされ終わると稲の収穫に稲わら集めの作業と、今でも大変だった事を思い出されます。現在は、哺育を担当しており、F1・ET和牛生産に力を入れて、毎回セリ市場にも足を運び、落札価格をみて一喜一憂して帰ってきていますが、子牛を育てることに関しては色々勉強し、最近では下痢をさせなくなったというのが一番の改善点です。

二つ目が「若人の翼」という海外派遣事業で、初めてポーランドに派遣され、そのホームステイ先で出会ったマーガレットと、年に一、二回クリスマスカードや手紙でやりとりを行っており、三十八年経つた今でも続いています。そんな私にも夢があり、「もう一度ポーランドにいつか行って、マーガレットと再会を果たしたい」ということとです。六年前の震災・原発事故の時も彼女の存在が、とても大きく救ってくれました。その当時、原発事故直後の映像を見た彼女が心配し言葉も通じない私に直接電話をくれた、「マーガレットに会いたい!!」という思いをより一層



強くしました。そして、今年の六月に、再会の夢が実現します。就農してから毎日が大変で何度も挫折しそうになり

ますが、彼女とのやりとりを続け、ポーランドに行きたいという夢を持ち続けたからこそ、今があると思っています。「この年でまさか!?!」とは思いますが、夢は自分が持ち続けるかぎり、その人の中にあり、実現をしようとする努力さえあれば、だれでも実現できるものなのです。私達中・高年には色々な問題が山積みですが、夢を持ち続ける、どんどん新しいことに挑戦することも大切だと思い、「悪いことは忘れる」それが中・高年の特権で、前向きに生きていと発表いただきました。



「開拓精神を受け継ぎ、酪農共同体として
次世代へと継承
地域営農の
永続性を求めて」
県南酪農研究会
農業生産法人 雪割牧場(有)
田中 進氏



次に、県南酪農研究会農業生産法人雪割牧場(有)田中進さんの「開拓精神を受け継ぎ、酪農共同体として次世代へと継承」地域営農の永続性を求めて」と題し、西郷村報徳地域は戦後、朝鮮や満州に入植した多くの人々が生きるため、食料確保のため、新たな土地を求めて開拓に入り、

法人設立に参加した役員は入植二三代に当たり、現在の生活基盤、自給飼料基盤があるのは、祖父母、父母たちのおかげであり、開拓精神を引き継ぎ、土地を絶やすことなく守っていかなくてはならないという精神は、雪割牧場の経営理念へと繋がっています。

私たちの牧場の歴史は平成三年から始まり、共同経営計画を三年間かけて作成し、参加メンバーそれぞれ、課題を提示、徹底的に議論し、意思統一を図り、最終的に作成された「雪割牧場有限会社設立計画書」はB4紙、計一三一ページにわたり、基本方針、施設や資金の計画などが事細かに決められました。

しかし、共同経営に対するイメージは悪く、法人化に踏み切るまで約八年の歳月を費やし、平成十二年一月十二日に『農業生産法人 雪割牧場有限会社』を設立し、都府県ではさきがけ的な共同経営体が誕生しました。

経営の特徴として、地域農地を積極的に借入し、作付面積現在四六・二五haにデントコーン・永年牧草・ライ麦(裏作)などの自給飼料生産、コントラクター事業、堆肥流通・耕畜連携事業、平成二十三年にフリーストール牛舎増設時に牛歩計の導入を行い、繁殖管理の効率化を図りました。

平成二十三年に牛舎の増設を行い設立後、初めて外部から導入しましたが二十四年以降は自家産後継牛により増頭施設増設に伴い飼養管理方法が変わり様々な問題も発生しましたががみんな意見を出し合い解決し、年間乳量、個体乳量も順調に伸びています。

今から、二十五年前に悩み、苦しみ、考え抜いた共同経営体、酪農を主産業として成り立ってきたこの地域を今後、守っていくためには当牧場がさらに強い経営体となり、担い手・労働力の確保・飼養頭数確保・自給飼料増産などの取組を行い、生産基盤を安定

させ、役員が変わっても雪割牧場が存続し、地域農業を支え続けていくことができるよう今後は人材確保・教育に力を入れ、開拓で先祖から受け継がれてきた生産基盤や技術を次世代にしっかりと継承していきたいと発表いただきました。

意見・体験発表と経営発表頂き、発表者のお二人の酪農に対する思いが熱く伝わり、また、夢や希望を大きく持ち続けられる酪農について、とても大きな魅力を感じましたし、酪農業は地域の関わりや大きな役割を背負っており、家族の支えや地域の仲間のつながりがとても重要ということを改めて感じました。渡辺さん、田中さんのように、「夢」や「将来」について、実現していく力強さにまだまだ、福島

島の酪農の大きな可能性をみいだせたように感じ、発表頂きましたお二人の今後のご活躍、ご発展を期待しております。さらに、三月二十一日(火)

二十二日(水)に開催される東北酪農青年女性会議主催の「第四十六回東北酪農発表大会」が開催され、意見体験発表の部に、渡辺 幸子さん、経営発表の部に農業生産法人雪割牧場(有)田中進さんが福島県酪農青年研究連盟代表として、発表しますので応援頂きますようお願い致します。



「『世界一受けたい酪農講座』」
全国酪農業協同組合連合会
技術顧問 村上 明弘氏

午後には、酪農講演会が開催され、全国酪農業協同組合連合会技術顧問村上明弘先生より、「『世界一受けたい酪農講座』」と題し、講演頂き、無事に酪農発表大会・酪農講演会は終了致しました。

モzzarellaチーズ作り 会津やまびこ会 研修会開催!!



会津やまびこ会は去る二月十六日木曜日、会津事業所において、下郷町の金子牧場と、金子政委さんを講師に迎え、モzzarellaチーズ作りの研修会を行いました。予め殺菌処理の下準備をして頂いたため、時間も短縮

され、乳酸菌を入れる工程から始めることができました。湯煎での牛乳の温度管理はちよつと気を許すと温度が上がったり下がったり…温度計との睨めっこはみんな牛舎の話をしながらか楽しく、あっという間に、次の工程へ。

レンネットを投入して、普段私たちがキッチンで使う泡立て器でカードを切る作業をみんなで分担。金子さんのチーズ作り研修は家庭にある鍋やボールで簡単にモzzarellaチーズを！
(これなら気軽に作れるかも！)



時間をみながらお弁当を食べ、そして温度を確認してお茶を飲んで、またおしゃべりして。

時間はあつという間に過ぎて、チーズを伸ばす工程も一人一人がそれぞれのチーズを伸ばしたり、丸めたり。そして出来上がったチーズは塩を振りかけて早速味見!!



めちやめちや美味しい!! あ〜ワインが欲しい(笑) そんな事を思いながら、自分で作った不恰好なストリン

グチーズ、そして自宅に戻ってから伸ばす工程から出来るようにとチーズ玉をお土産に頂きました。



お天気にも恵まれて(吹雪だったら手芸講習になる予定でした)、会員の親睦も兼ねたモzzarellaチーズ作り研修会は、スーパーで買う牛乳パックではできない、酪農家だからこそ取り組める贅沢な研修会でした。そして普段なかなかお会いすることのない他組合の農家さんが講師という事もあり、とても新鮮で垣根を超えた交流も時には必要だなあと感じた一日でした。

飼料用米現地研修会開催!!

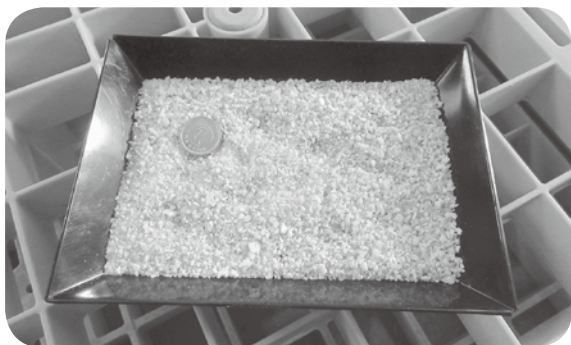
(株)アグリジャパン大玉にて



平成二十九年一月二十七日
 (金)、安達郡大玉村にある(株)アグリジャパン大玉にて、飼料用米の現地研修会を開催しました。研修会には、県北支所の組合員をはじめ三十名が参加されました。

講師は、(株)アグリジャパン大玉代表取締役の佐原洋一郎氏と、福島県酪農業協同組合 県北酪農指導所より平尾指導員が務め、県北地域で行っている飼料用米の加工・給与の実演と、概要・流通の仕組みの説明を行いました。

(株)アグリジャパン大玉は、飼料用米活用の取組を早くから始めており、平成二十四年に導入した飼料粉碎機で自家産飼料用米の利用からはじめ、自らの乳牛への給与実績を積み重ねた上で、地域酪農家にも広く利用を推進していきたいという思いで、地元JAから原料となる飼料用米の供給を受け、平成二十七年から県北地域の酪農家七戸と一緒に飼料用米利用に本格的に取り組んでいます。



飼料用米の生産・加工・利用の地域を近くすることで、運賃等のコストが安く抑えられ、比較的安価で、飼料成分がトウモロコシとそれほど変わりなく、エサの一部を置き換える形で給与する等で、飼料費の低減を図ることができるとのことです。

参加者は皆興味津々で、質問攻めに遭いながらも、佐原氏はひとつひとつ丁寧に回答されていました。研修会は盛況のうちに閉じられ、その後には参加者全員に、粉碎飼料用米のサンプルを配布頂きました。



日本酪農政治連盟
福島県支部連合会

第五十四回定期総会が
開催されました

平成二十九年二月六日(月)十一時か

ら本宮市仁井田の福島県酪農協本所
会議室で標記総会が開催されまし
た。始めに佐藤金正会長から会長接
拶があり、県政・国政について情報
提供があり、今回の総会を契機とし
て確実に酪農が持続できる政策提言
に向かって酪政連が果たしていく決
意を述べられました。続いて福島県
農林水産常任委員会委員長 遊佐久
男氏、日本酪農政治連盟委員長
佐々木勲氏、福島県酪農業協同組合
代表理事組合長 宗像実氏から祝辞
をいただきました。

来賓紹介・祝電披露の後佐藤金正
会長が議長となり議事に入りました。

第一号 平成二十八年年度運動報告財

産目録 収支決算書につ
いて

第二号 平成二十九年年度運動報告
(案) 収支予算書(案)

について

第三号 平成二十九年年度会費の賦課
並びに徴収方法について

提出議案はすべて承認されました。

〈重要な運動並びに推進事項〉

1 東電原発事故からの復旧復興対
策の要請運動

2 TPP・WTO農業交渉・FT
A交渉においての市場開放に
おける所得補償制度(セーフ
ティネット)の創設

3 飲用向け生産者乳価に関する運
動

4 国産生乳の需要拡大対策と牛乳
乳製品の消費拡大運動

5 加工原料乳生産者補給金等酪農
予算に関する要請運動

6 学校給食用牛乳供給事業制度の
維持運動

7 ①自給飼料作付けに対する支援
要請 ②飼料用米WCS利用促
進に対する支援要請

8 高騰している後継牛を確保する
ための支援要請

9 酪農ヘルパー事業の円滑な運営
のための支援要請

10 酪農政治力の結集と組織の強化

牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD)
バルククーラー乳スクリーニング検査結果について

平成29年1月10日付で通知していましたが、牛呼吸器病ワクチネーション変更に係る実体把握の為の「牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) バルククーラー乳スクリーニング検査」を平成29年2月上旬に実施致しました。

実施件数は、191件で、2月下旬に順次検査結果が判明し、3月に各出荷者に文書通知いたしました。

ご協力誠にありがとうございました。

(担当：生産部診療課)

全酪連の小窓 第65回

高カリウム濃度牧草をどう活用するか

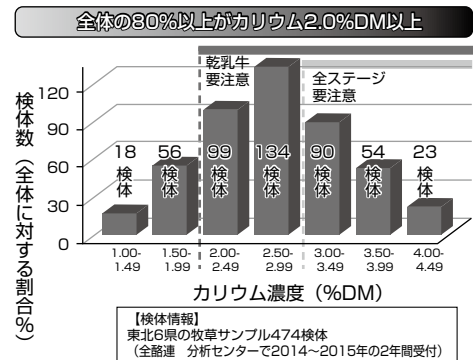
お世話になっております、全酪連の今城です。連日の降雪もあるなどさすがに冷え込む今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回はカリウム濃度の高い牧草にスポットを当て、対策法などをまとめてみましたのでご参考にしていただけたら幸いです。

東北の牧草の大半が高カリウム濃度

近年の東北の牧草は以下を背景にカリウム濃度が高い恐れがあります。

- ① 糞尿の長年の投入、圃場面積あたりの堆肥投入量増加
- ② トウモロコシ畑からの転作
- ③ 放射性セシウムの吸収抑制対策



高カリウム牧草による問題と対策

カリウムの飼料全体における最大許容濃度は3.0%DMとされます (NRC2001)。

過剰給与はマグネシウム、カルシウムの吸収/利用率を低下させます。これによって低マグネシウム血症 (グラステタニー)、低カルシウム血症 (乳熱) の一因となります。

■低マグネシウム血症、低カルシウム血症が引き

起こす (誘発する) 経営上の問題

- ・ 乳熱 (含潜在性)
- ・ 起立不能
- ・ 子宮回復の遅れ
- ・ 乳房炎
- ・ 乳房浮腫
- ・ 第四胃変位
- ・ 繁殖成績の低下
- ・ ケトージス など

対 策

①カリウム濃度が低い飼料と組み合わせる

飼料全体のカリウム濃度を引き下げ、適正な濃度とします。
 搾乳牛: 1.5-2.0%DM (最低限3.0%DM以下には設計したい)
 乾乳牛: 2.0%DM以下 (乾乳後期:Far-offでは1.3%DM以下)

②マグネシウム、カルシウムを添加

テタニー比 $[K/(Ca+Mg)]$ を2.2以下に下げる観点でも添加 (特に放牧)

③塩素 (Cl)、硫黄 (S²⁻) を添加

DCAD $[(Na+K)/(Cl+S)]$ を適正な値に設計します。

カリウム濃度の低い飼料

■各種イネ科輸入乾牧草

チモシーやオーツヘイが利用できます。なお、オーツヘイはナトリウム (N) 濃度が高く、DCAD調整上、乾乳期間中の過度な給与は控えた方が良いでしょう (他の牧草と混ぜて給与することは可能です)。

また、クレイングラスはカリウム (K) 濃度はやや高いものの、塩素 (Cl)濃度も高いためDCAD調整機能に役立ち、乾乳期間中にも適した牧草と言えます。

■ビートパルプペレット

特徴

- ルーメン内での消化速度の速いペクチンを多く含む
- 乾牧草と同じく、酢酸発酵が主でルーメン環境にやさしい
- K (カリウム) 濃度が他の乾牧草に比べて低い
- 乾牧草に比べて消化率が高い
- 酢酸発酵で、ルーメンpHを低下させずにVFA (揮発性脂肪酸) 生産量をも高める

参考: 各種イネ科輸入乾牧草、ビートパルプミネラル分析 (2014年産)

草種	産地	Ca	P	Mg	K	Na	S	Cl	DCAD meq/100g
クレイングラス	インベリアルバレー カリフォルニア州	0.43	0.18	0.43	2.45	0.01	0.25	1.52	-6.7
スーダングラス	インベリアルバレー カリフォルニア州	0.44	0.19	0.38	1.99	0.01	0.14	1.13	2.1
US産チモシー	コロニアベースン ワシントン州	0.37	0.25	0.17	2.28	0	0.16	0.93	12
	キチタスバレー ワシントン州	0.26	0.16	0.15	1.51	0	0.11	0.69	5.1
オーツヘイ	オーストラリア	0.19	0.15	0.14	1.48	0.44	0.12	1.32	4.8
ビートパルプ	米国中西部	0.99	0.08	0.27	0.46	0.04	0.37	0.03	-33

検体数: クレイングラス=25、スーダングラス=15、US産チモシー=10、オーツヘイ=15、ビート=25

今回も最後までお付き合い頂きましてありがとうございました。
 牧草の状態に応じて適切なカリウム調整を心がけましょう。

アフラトキシンを防ぐためにも、 飼料を適正に管理しましょう！

乳牛が、アフラトキシンB₁に汚染された飼料（とうもろこし等）を食べると、体内で代謝され、アフラトキシンM₁として乳中に出てきます。

飼料がかび毒に汚染されることを防ぐためにも、以下に示すような、飼料の管理を日々、着実に行うことが不可欠です。それにより、他の有害物質の汚染も防げます。

（規制値） 生乳中のアフラトキシンM₁: 0.5 μg / kg

※規制値を超えるアフラトキシンM₁を含む生乳は、食品衛生法違反となり、出荷できません。



飼料の適正管理のポイント

- ① 購入飼料は受け入れ時に、外観・色・におい及び品質等に異常がないことを確認する。
- ② 飼料の種類に限らず、保管場所は定期的に清掃を実施し、清潔に保つとともに、風通しの良いところで水ぬれしないようにする。
- ③ 飼料のかびの有無や品質等を、給与時に確認する。
- ④ かびが発生している場合は、かびとその周辺を取り除いてから給与する。
- ⑤ 飼料及び飼料添加物の給与量等を記録し、8年間保存する。

● アフラトキシンM₁とは

アフラトキシン類は、コウジカビ属の一部のカビが産生するかび毒で、遺伝毒性を伴う発がん物質です。このカビは、土壌・食品・飼料で増殖し、穀物・種実・香辛料などを汚染することが知られています。牛の飼料では、特にとうもろこしの汚染が問題です。

アフラトキシン類のうち、最も強い発がん性を持つアフラトキシンB₁に汚染された飼料を乳牛が食べると、肝臓で代謝され、その一部はアフラトキシンM₁として乳中に出てきます。

● アフラトキシンM₁の規制値への整合

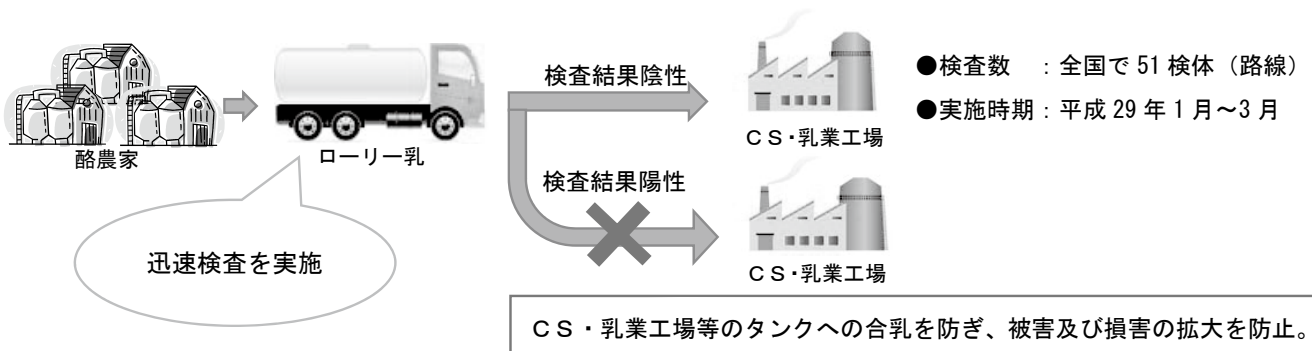
アフラトキシン類は、遺伝毒性を伴う発がん物質であることから、飼料中のアフラトキシンB₁及び乳中のアフラトキシンM₁濃度を合理的に達成可能な範囲でできる限り低い水準に抑えるべきとした食品安全委員会の見解を踏まえ、厚生労働省は、乳中のアフラトキシンM₁について、0.5 μg/kgの規制値（コーデックス基準と同値）を設定しました。（平成28年1月23日から適用）

国産の牛乳の調査結果では、ほとんどの牛乳からアフラトキシンM₁が検出されましたが、農水省の指導による飼料中のアフラトキシンB₁の規制により、乳中のアフラトキシンM₁濃度は低く抑えられています。（平均0.009 μg/kg、最大でも0.029 μg/kg）

生産者段階において通常の飼養管理をしていれば、生乳からアフラトキシンM₁が規制値を超えて検出されることは、ほぼ起こり得ないと考えています。

★ 消費者と生産者（生乳生産者）を守るために

消費者に対する牛乳乳製品の安全・安心を確保する観点から、酪農乳業全体での取組みの一環として、一般社団法人Jミルクにおいて、平成28年度はローリー乳（集乳路線）を対象に迅速検査によるアフラトキシンM₁検査を実施しています。



※検査内容の詳細については、中央酪農会議または指定団体にお問い合わせください。

★ 配合飼料（飼料製造者）における規制

- ① 牛乳中のアフラトキシンM₁濃度が規制値を超えないように、アフラトキシンB₁の基準は乳用牛用配合飼料（10 μg/kg）と原料であるとうもろこし（20 μg/kg）に設定されています。
- ② 毎年、FAMIC（独立行政法人 農林水産消費安全技術センター）が、飼料工場等に対し立入検査を実施しています。なお、これまで乳用牛用配合飼料から基準値を超える事例はありません。
- ③ 平成27年6月には、原料から最終製品までの全工程において実施する基本的な安全管理の指針として、農水省が「飼料の適正製造規範（GMP）ガイドライン」を制定しました。

習慣化しよう！

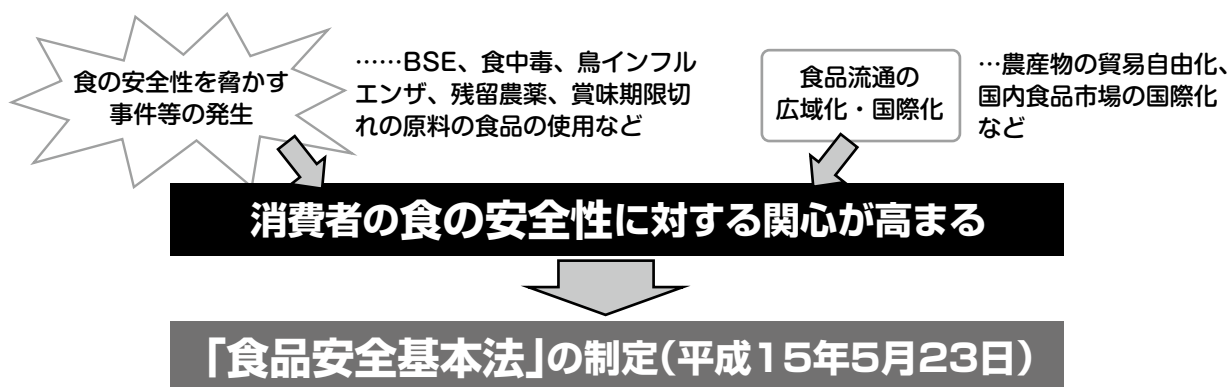
生乳生産管理チェックシートの記帳・記録

～良質乳を生産して安全・安心を確保するために～



「食の安全・安心」が求められる中で、生乳生産者段階でも積極的にその役割を果たしていかなければなりません。生乳生産者には、**管理基準に沿った生乳生産、「生乳生産管理チェックシート」の記帳・記録の保管**を行い、自らの責任において安全性を確保するため、必要な措置を講ずるよう努めることが求められています。

■ 「生乳の安全・安心確保のための取り組み」の背景



基本理念は「国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下に、食品の安全性の確保のために必要な措置が講じられること」で、食品関連事業者は基本理念にのっとり、責務を有します。生乳生産者も食品関連事業者であり、以下の取り組みを行う責任があります。

■ 酪農家における取り組み

酪農家における取り組み

衛生的な生乳生産及び安全な生乳の供給を目的として、HACCP的手法を用いた管理基準を策定し、一部法令順守等の観点から最低限実施すべき項目を重点管理基準として設定した。(「生乳生産等の飼養・衛生に関する管理基準」の策定)

- ・管理基準に沿った生乳生産の実施(生乳生産管理マニュアル参照)
- ・重点管理基準に基づく記帳作業(生乳生産管理チェックシートの利用)



指導者による取り組み状況の確認(第三者的検証)及び改善指導

「日々、衛生的で安全な生乳を出荷している」ことを再確認する

消費者や取引先の皆様に「安全・安心」を届ける

万が一、乳質事故が発生した場合に、酪農家の「身を守る」手段となる

■ チェックシートの記帳・記録

記帳・記録の習慣化が重要

- 記帳・記録は生乳受託契約に明記された生乳取引の決まりです。
- 記帳・記録が徹底されなければ、生乳の安全性を確保することができません。

チェックシートを受け取ったら、**すぐに**記帳しよう！

(4月1日現在)

- ミルカー用洗剤
- バルククーラー洗剤
- ディッピング剤

P106

●ミルカー用洗剤（購入伝票等を保管）

アルカリ	酸性	殺菌剤	その他
4月1日現在			
製品名:	製品名:	製品名:	製品名:
○○○○	△△△△	□□□□	××××
上記の製品を変更した場合は、都度、製品名と使用開始日を記入してください。			

●バルククーラー用洗剤（購入伝票等を保管）

アルカリ	酸性	殺菌剤	その他
4月1日現在			
製品名:	製品名:	製品名:	製品名:
○○○○	△△△△	□□□□	××××
上記の製品を変更した場合は、都度、製品名と使用開始日を記入してください。			

●ディッピング剤（購入伝票等を保管）

フレ	ポスト	揮発用殺菌剤
4月1日現在		
製品名:	製品名:	製品名:
○○○○	△△△△	□□□□
上記の製品を変更した場合は、都度、製品名と使用開始日を記入してください。		

- 飼料給与記録表

商品名	販売元 (製造元)	給与区分 ○を付けてください。	使用開始 年月	使用終了 年月
4月1日時点の飼料の給与内容を記入してください。それ以降は、飼料を変更した場合に書き加えてください。				
○○○1号	△△△△	哺育・育成・ <u>搾乳</u> ・乾乳・肥育	25.4	25.7
大豆皮	△△△△	哺育・育成・(搾乳)・乾乳・肥育	25.4	

P108~
111

- 家畜排せつ物の発生量等に関する記録

P129

1 年間の家畜排せつ物の発生量

(単位: t/年)

	平均的な飼養頭数 (頭) ①	1頭当たり排せつ物量		1年当たり排せつ物量		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④	尿 ⑤	合計 ⑥
総発生		16.4	4.0	(①×②)	(①×③)	(④+⑤)

2 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合	
	ふん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 他処理施設等に処理	割	割

衛生管理チェックシートは、**毎日**記帳しよう！

- ミルカー・バルクの洗浄、○動物用医薬品等の投与の有無 等

P8~

発行：東北生乳販売農業協同組合連合会

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

2017年1月31日現在

区 分	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
	組合／支所	戸数 (避難戸数)	前年度 戸 数	前年比	育成	初妊	経 産 牛			合計	前年度 頭 数	前年比	1戸当 り頭数
							乾乳 妊娠	妊娠 搾乳	空胎 搾乳				
県 北 支 所	戸	戸	%	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	%	頭
安達事業所	20	22	90.9	311	38	149	436	681	1,266	1,615	1,474	109.6	80.8
安達事業所	21	22	95.5	84	42	51	107	286	444	570	601	94.8	27.1
県 中 支 所	29	29	100	143	46	75	178	487	740	929	961	96.7	32.0
田村事業所	25	28	89.3	29	10	21	40	168	229	268	304	88.2	10.7
小野事業所	25	27	92.6	57	20	54	99	202	355	432	462	93.5	17.3
会津事業所	8	9	88.9	69	19	29	76	134	239	327	321	101.9	40.9
浜 支 所	10	10	100	82	22	31	47	115	193	297	320	92.8	29.7
県 南 支 所	50	57	87.7	641	250	276	608	1,197	2,081	2,972	3,160	94.1	59.4
JAふくしま未来(飯籾)	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
県 酪	188	204	92.2	1,416	447	686	1,591	3,270	5,547	7,410	7,603	97.5	39.4

区 分	月 別 分 娩 予 定 頭 数								販 売 乳 量				
	組合／支所	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017	牛乳 出荷 戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		1日当り	1日1戸 当り	搾乳牛	経産牛
県 北 支 所	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	戸	kg	kg	kg	kg
安達事業所	100	100	76	71	59	63	154	20	27,087	1,354	24.2	21.4	
安達事業所	26	34	24	25	28	29	34	21	10,623	506	27	23.9	
県 中 支 所	49	46	35	33	38	49	49	29	16,496	569	24.8	22.3	
田村事業所	11	12	10	7	13	5	12	25	4,734	189	22.8	20.7	
小野事業所	26	23	26	24	19	23	32	25	7,711	308	25.6	21.7	
会津事業所	18	16	15	9	19	12	35	8	4,875	609	23.2	20.4	
浜 支 所	18	17	13	19	12	11	10	8	4,316	540	26.6	22.4	
県 南 支 所	123	136	153	144	180	163	235	50	49,487	990	27.4	23.8	
JAふくしま未来(飯籾)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	
県 酪	371	384	352	332	368	355	561	186	125,329	674	25.8	22.6	

平成28年度受託乳量の状況

平成29年1月の受託乳量は、県全体で前年比100.5%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,889ト、前年比101.5%（対前年同月59ト増）、全農県本部は1,997トの対前年比98.6%（対前年同月28ト減）の実績で

ありました。

東北生乳販連の受託実績については、前年比99.4%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比98.6%であります。（北海道：98.3%、都府県98.9%）

平成28年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

1月の東北全体での用途別販売状況については、NHKためしてガッテンで『尿酸値を下げるのに牛乳が良い』と放送してくれたおかげで首都圏での飲用需要が急伸し、飲用向けが102.4%（全国の前年比103.0%、北海道は前年比111.6%）、醗酵乳向けは102.5%（全国の前年比101.9%）、学乳向けが103.9%、生クリーム向けは105.2%（全国の前年比

102.3%）と上回り、加工乳向けは前年比81.5%（全国の前年比87.4%）、チーズ向けは88.9%（全国の前年比103.0%）と前年を下回り推移した。

なお、今月の当組合酪王乳業での生乳使用量は日量平均46.5トで、本組合生産量の37.1%、県全体生産量の24.5%を処理しています。

平成29年度月別支払乳価表

1月分支払乳価については、現在のところ加工向け飲用向け共に価格据え置きで取引されており前年対比で大幅な乳価増減は有りませんでした。プール乳価、補給金単価合せて前年より35.5銭上回る単価となりました。

■東北全体プール乳代金 4,582,112千円 単価106.115円
 ■内 福島県分プール乳代金① 562,088千円 単価106.115円
 プール対象外乳代金② 87,857千円
 (学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 649,945千円 単価110.415円

項目	29年1月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	104円600	103円949	0円651	101円027
補給金単価	1円223	1円519	-0円296	1円579
合計	105円823	105円468	0円355	102円606

(注)上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

(東北全体1月)

用途別	販売乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)
飲用向け	31,358	1,012.0	102.4
加工向け	4,387	142.0	81.5
学校給食向け	2,165	70.0	103.9
醗酵乳向け	5,744	185.0	97.7
生クリーム向け	1,498	48.0	105.2
チーズ向け	193	6.0	88.9
全乳哺育向け	1	0.0	100.0
合計	45,346	1,463.0	99.4

団体別受託乳量の状況

団体名	1月分		
	受託乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)
県酪協	3,889	125.5	101.5
全農福島県本部	1,997	64.4	98.6
合計	5,886	189.9	100.5
東北生乳販連	45,345	1,462.7	99.4
全国	594,406	19,174.4	98.6

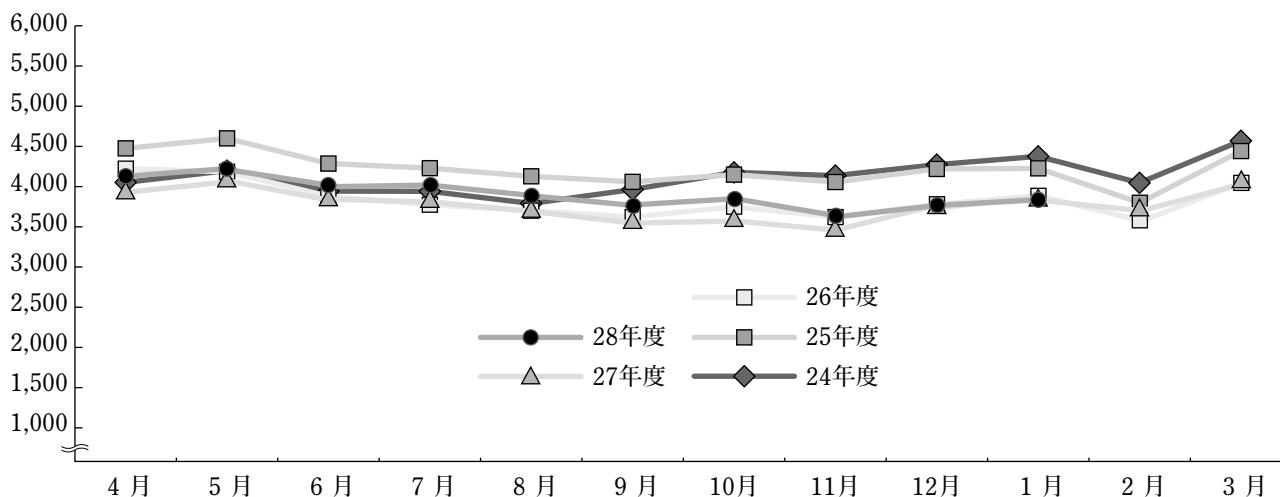
備考

1) 買取乳量を除く

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24年度	4,052	4,200	3,943	3,913	3,790	3,964	4,178	4,110	4,273	4,373	4,054	4,569	49,419
25年度	4,476	4,605	4,287	4,231	4,129	4,062	4,149	4,053	4,219	4,276	3,807	4,343	50,637
26年度	4,148	4,185	3,879	3,775	3,703	3,621	3,749	3,620	3,781	3,886	3,577	4,035	45,959
27年度	3,921	4,061	3,836	3,802	3,658	3,513	3,575	3,486	3,668	3,830	3,708	4,071	45,129
28年度	4,094	4,231	4,025	4,028	3,894	3,717	3,839	3,663	3,822	3,889			
前年比%	104.4	104.4	104.9	106.0	103.8	105.8	107.4	105.1	104.2	101.5			

単位・トン



年次別・月別支払乳価一覧（補給金を含む）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
28年度	105.156	106.012	106.878	105.825	104.876	107.459	107.162	106.517	104.921	105.283			
27年度	105.116	105.882	106.888	105.964	105.240	107.090	107.342	106.859	106.298	105.468	106.726	104.446	115.756
26年度	100.739	102.193	103.829	102.826	101.978	104.278	104.043	104.000	102.000	102.606	103.222	101.321	112.094
25年度	96.846	98.345	99.659	98.837	97.220	99.688	102.698	102.627	100.215	100.738	101.861	99.542	108.934
24年度	96.446	97.780	99.371	98.530	97.817	100.446	99.772	99.452	97.324	97.231	97.699	95.806	107.061

第256回 県酪協乳牛市場成績

平成29年 2月14日開催

購買者数 33名（うち県外17名）

区分	畜種	雌雄	成立数 (成立率)	最高価格 最低価格	平均価格 (前回比)	平均体重 (前回比)	平均単価 (前回比)
ET和牛 初生牛	ET和牛	メス	6 (100)	525,000 412,000	475,000 (107)	102 (113)	4,680 (95)
		雄	20 (100)	707,000 463,000	595,850 (107)	113 (106)	5,282 (101)
	乳牛	メス	2 (100)	40,000 8,000	24,000 (122)	55 (85)	440 (144)
		雄	101 (99)	142,000 29,000	106,505 (115)	83 (111)	1,281 (104)
	交雑牛	メス	100 (99)	318,000 14,000	184,230 (113)	71 (101)	2,603 (113)
		雄	94 (98)	385,000 151,000	307,585 (128)	75 (97)	4,125 (133)

価格：円（落札価格） 率・比：％ 体重：kg

初生牛の畜種毎価格帯別分布表

（0は0.1～0.9万円、1は1.0～1.9万円、以下同様。尚、落札価格です）

畜種	雌雄	価格帯（万円）																																				
		<45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70											
ET和牛	メス	3					1	2																														
	雄		1				2	2		2	1	1		1	1		1						1	1	1	2	1	2										
畜種	雌雄	価格帯（万円）																																				
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25											
乳牛	メス	1				1																																
	雄			1	1	1	2	3	1	4	11	33	17	13	13	1																						
畜種	雌雄	価格帯（万円）																																				
		<13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38											
交雑牛	メス	16	3	5	11	17	6	9	5	2	7	7		4	2	4					2																	
	雄			1			1	3	1				1	2	5	2	3	5	2	11	11	10	13	12	9	1												

組 合 の 動 き 2 月

2月1日	原子力発電所の廃炉に関する安全確保 県民会議	2月17日	FD24会第3回役員会
2月3日	福島県家畜自衛防疫推進委員会	2月20日	酪王乳業（株）取締役会
2月3日	全酪連酪農セミナー2017	2月21日	第10回理事会
2月6日	日本酪農政治連盟福島県支部連合会 第54回定期総会	2月21日	平成28年度下期代表理事等との定期的 会合
2月7日	県中支所小野地区支部研修会	2月22日	田村事業所報告会
2月9日	第3四半期内部検査（本所）	2月23日	浜支所運営委員会
2月9日	農業改革（酪農）関連 全中と与党意 見交換会	2月23日	～24日 東北酪農生産研究会会員女性研修交流会
2月10日	県酪ヘルパー合併推進会議第1回委員会	2月24日	福島県酪農青年研究連盟第64回酪農発 表大会・酪農講演会
2月14日	乳牛セリ市場	2月24日	福島県農業会議常設審議委員会
2月14日	～15日 全酪連監事研修会	2月27日	東北酪農専門団体協議会研修会
2月16日	第2回管理委員会・生産委員会合同会議	2月28日	第11回経営検討会
		2月28日	第8回再建検討委員会

理 事 会

第10回 2月21日

議 案

- 議案第1号 平成28年度第3・四半期事業実績報告
及び部門別損益報告について
- 議案第2号 平成29年度高能力乳用雌牛整備事業の
実施について
- 議案第3号 田村方部における事業所問題について
- 議案第4号 田村事業所改修工事について

報 告 事 項

- 1) 今後の日程について

管理委員会・生産委員会合同会議

第2回 2月16日

協 議 事 項

- 1) 田村方部の事業所問題について
- 2) 田村事業所改修工事について
- 3) 定款附属書役員選任規程の改正について
- 4) 定款附属書役員選任規程の改正について

田村方部の事業所の統合について

平成29年2月21日の理事会において、第6次中期経営3カ年計画で
取り上げられていた「田村方部の事業所の統合」が承認されました。

① 統合時期

新年度である平成29年4月1日となります
が、4月1日は土曜日であることと棚卸監査の
都合で、小野事業所から引っ越すのは3月28日
となり、翌日からは営業ができます。

② 承継する事務所

田村郡小野町大字小野新町字宿後124
(田村方部の米調べるセンターとして賃貸していた所)

③ 名称

田村事業所とし、船引町堀越の事務所は堀越
事務所となります。

④ 暫定措置

平成29年度1年間に限り、堀越事務所は毎週
火曜日と金曜日に営業することとなりました。
時間帯は10時から15時となります。詳しくは
カレンダーを作成することとなりました。

⑤ 職員体制

2名体制となりますので、サービスの向上に
努めます。



福島県酪農青年研究連盟より

お知らせ

「第48回福島県ホルスタインショー」

4月22日(土)福島県家畜市場(本宮市)
にて、開催致します!

福島県酪農青年研究連盟主催の春のホルスタインショーを4月22日(土)に開催致します。

今大会は、出品区分を6部制に変更して、執り行われますので、詳しい内容等について、各事務局へご確認ください。

今年度もより多くの会員から、多数の出品牛が県内各地よりご参加されますことをお待ちしております。

福島県を酪農から元気に！全国の酪友に頑張っている姿を発信！そして、会員同士が近況を語り合える場！再会の場！

として、福島県ホルスタインショーを盛り上げましょう!!ぜひ、皆様のご来場をお待ちしております。

第48回福島県ホルスタインショー

- 期 日 平成29年4月22日(土)
開会式 10:00~10:20
第1部審査開始 10:30~
- 場 所 福島県家畜市場 本宮市関下
- 審査長 福島県農業総合センター畜産研究所 所長
- 審査員 岩手県酪農家 中六角 保広 氏



第47回福島県ホルスタインショー審査風景



ジュニアショー

子ども達を対象とした“ジュニアショー”を
開催します!! 元気な子ども達の参加を
お待ちしております!!

※「ジュニアショー」は11:30より開催致します。

第48回福島県ホルスタインショーの部数並びに出品区分について

部 別	月令及び条件	生年月日の範囲
第1部	生後7ヶ月以上~生後12ヶ月未満の未經産牛	28. 5. 1~28. 9.30生まれ
第2部	生後12ヶ月以上~生後16ヶ月未満の未經産牛	28. 1. 1~28. 4.30生まれ
第3部	生後16ヶ月以上の未經産牛	27. 12.31以前の生まれ
第4部	生後36ヶ月未満の経産牛	26. 5. 1以降の生まれ
第5部	生後36ヶ月以上~生後48ヶ月未満の経産牛	25. 5. 1~26. 4.30生まれ
第6部	生後48ヶ月以上の経産牛	25. 4.30以前の生まれ

※出品区分の基礎となる年齢は、平成29年4月30日をもって算定する。

ただし、資格条件としてホルスタイン種雌牛で登録牛（申請中を含む）であるものとし、生後24ヶ月以上は妊娠確実なものとする。

バイエル子牛の健康講座 おしえて！ウッシー先生⁽²³⁾

初乳や初乳製品に関する話題を中心にご紹介してまいりましたが、いずれも子牛に免疫を与える、という目的を果たすためです。免疫獲得のためには「カード形成」が必要であること、母牛由来の初乳の品質は均一ではないこと、同じ量の IgG を含んでいたとしても「代用初乳」と「初乳サプリメント」では子牛が獲得する IgG 量に差が出ることを取り上げました。また、菌に汚染された初乳を給与しても免疫の獲得がうまくいかないことや子牛の体温を上げるための乳脂肪の重要性についても触れました。

今回は、品質が担保された「代用初乳」と「プールしておいた母牛由来の初乳」を給与したときの離乳(約 60 日齢)までの子牛の発育状況についてご紹介いたします。前者は 2.8L (IgGとして 200g)を、後者は約 4Lをいずれも生後 6 時間以内の子牛に 1 回給与しました。その結果が以下の表です。代用初乳を給与した群の方が下痢の発生率が低く、抗菌剤を投与した割合も少ない結果となりました。また、出生時の体重には差がみられませんでした。離乳時における体重は代用初乳群の方が有意に重くなっていました。これまでご紹介してきたとおり、母牛由来の初乳は品質にばらつきが大きく子牛の発育や病気にかかる割合に差が出ることを示されました。



ウッシー先生

表 代用初乳もしくは母牛由来の初乳を給与したとき、離乳までの疾病発生状況と体重の差

	代用初乳 (295 頭)	母牛由来の初乳 (273 頭)	有意差
下痢発症頭数	47 (15.9%)	67 (24.5%)	あり
抗菌剤を使用した頭数	99 (33.6%)	118 (43.2%)	あり
疾病もしくは治療がなかった頭数	187 (63.4%)	148 (54.2%)	あり
出生時体重	39.1kg	39.4kg	なし
離乳時体重	58.9kg	57.0kg	あり

Aly et al. BMC Veterinary Research 2013, 9:168 を一部改編

さて、2 年間連載してまいりました「バイエル子牛の健康講座 おしえて！ウッシー先生」は今回でいったん終了となります。しかし初乳や初乳製品、子牛の飼養管理に関する話題はまだあります。ですから、あらためて話題を提供させていただく機会があるかと思えます。

この連載が少しでもお役に立てたのであれば存外の喜びです。最後までお読み下さり本当にありがとうございました。



バイエル薬品株式会社

動物用薬品事業部

〒981-3133

仙台市泉区泉中央 1-14-1 インテレクト 21

TEL (022)776-0271

ZENOAQ コーナー Vol.147



「バルク乳の細菌検査」を 利用して乳房炎と 搾乳衛生をチェックしましょう!

〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

TEL024-945-2306 FAX024-945-9345

バルク乳中に存在する細菌の菌種と菌数を知ることは、乳房炎の原因菌のみならず、日常の搾乳作業や衛生状態、搾乳機器の洗浄状態などを評価し、トラブル改善の有効な手がかりとなります。

特に、明らかな症状を示さない潜在性乳房炎でバルク乳中の体細胞数が増加している場合には、その原因が伝染性の細菌なのか環境性の細菌なのかで対処方法が異なるため、バルク乳検査で牛群の感染状況を確認することは、乳質改善の最初のステップとして重要です。

検査項目	目的	評価
黄色ブドウ球菌	伝染性乳房炎の発生状況	基本的には分離されてはいけない菌
無乳性レンサ球菌		陽性なら個体確認し、即衛生対策を実施
環境性ブドウ球菌	環境性乳房炎の発生状況	少なければ少ない程良好 大腸菌群等が少なく、これらの菌が多ければ乳房炎が原因
環境性レンサ球菌	搾乳衛生の適否	
大腸菌群	搾乳衛生、衛生管理等の適否	可能な限り分離されてはいけない
シュードモナス等	搾乳機器の洗浄、殺菌状況等の適否	※耐熱性菌は65℃30分処理後に発育する細菌の数
耐熱性菌		
総生菌数	全体の衛生状況の適否	可能な限り少ないこと

**バルク乳の細菌検査を継続すると農場毎の
乳房炎原因菌の傾向がわかります!!**

■農場の出荷乳量を増やすには？

乳房炎を出さないのが一番・・・でも治療したら頑張って廃棄乳を減らしませんか？

抗生物質検査は使用禁止期間を
経過したら速やかに受けていますか？

しっかり検査を受け、早く再出荷出来れば経済的にプラスです!!!

Time is...
使用禁止期間の短縮で差が出る経済効果

セファメジンZは
独自のMCM技術*により
抗菌性に優れ、それに伴い
従来品**に比べ使用禁止期間が
72時間から60時間に
12時間短縮されました

NEW

Cefamezin

美味しい
酪王牛乳



生乳不足を補うために、農場の出荷乳量を増やすには、乳生産を増やすか廃棄乳を減らすかの大きく2つの対策がありますが、今回は廃棄乳に大きく関わる疾病「乳房炎」について触れておきます。

乳房炎による損失は、治療による薬剤費と診療費、治療期間中の餌代に加えて、上記したように廃棄乳による出荷乳量の減少が大きな部分となっています。乳を廃棄する期間は抗生物質投与により、治療している期間だけでなく、投薬終了後も薬剤が乳中に検出されなくなるまでの期間が必要です。廃棄乳の損失は以下のように計算できます。

廃棄乳損失計算例

- ①乳価 (100円) × 乳量 (25kg) × 廃棄期間 (3日間治療期間+6日間使用禁止期間) = 22500円
- ②乳価 (100円) × 乳量 (25kg) × 廃棄期間 (3日間治療期間+3日間使用禁止期間) = 15000円
- ③乳価 (100円) × 乳量 (25kg) × 廃棄期間 (3日間治療期間+2.5日間使用禁止期間) = 13750円

※乳価は地域によって異なります。製品によって、使用禁止期間が異なります。

損失（廃棄乳）を減らすには、乳房炎の発生を減らすことが第一ですが、乳房炎にかかってしまった際は適切に治療し、できるだけ速やかに出荷できるようにすることも重要です。治療方法や薬剤の選択に関しては担当獣医師にご相談下さい。

また治療後、出荷を再開する際は、必ず検査を実施し、牛乳中への抗生物質残留事故を防止していきましょう！

平成27年度 牛乳・乳製品利用料理コンクール 福島県大会入賞レシピ



福島県立光南高等学校
正木 静香さんの作品

秋のミルク豚汁



●●● 材 料 ●●●

(材料:4人分)

・味の素コンソメ…………… 2個	・さつまいも(中)…………… 1本
・水…………… 800ml	・にんじん…………… 1/2本
・牛乳…………… 200ml	・ごぼう…………… 1/2本
・みそ…………… 小さじ2	・大根…………… 1/3本
・豚こま切れ…………… 100g	

●作り方

- ① ボールに水を用意し、ごぼうを輪切りにしてボールに入れ、アク抜きをし、アクが抜けたら水洗いしザルにあげる。
- ② さつまいもは輪切りにし、水で洗いザルにあげておく。人参と大根はいちょう切りにする。
- ③ 鍋にコンソメ・水・牛乳・①・②を入れ、中火でアクを取りながら煮込む。アクが取れたら、豚こま切れを入れて、更にアクを取る。

- ④ 具材に火が通ったら火を止め、みそを入れて味を調節して完成。

ポイント

牛乳を入れることで味がまろやかになる。

「ほっとmilk」投稿募集について みなさんからの投稿お待ちしております!!

1. テーマは自由 (ほっと (^O^) する話題がいいですね)

- ◎文章だけでも結構です。
- ◎写真があると最高です。

2. 受付 (常時うけつけしています)

メール・FAX・支所経由・直接持参・なんでもOKです。

E-mail: hi-masiko@fukuraku.or.jp FAX 0243-33-1103

県酪だよりの作成に携わるようになりずいぶんと月日が流れてしまいました。たくさんの方から話題や情報を提供頂いたり、取材といいながら様々なところへ出かけていき、たくさんの方にお会いする機会にも恵まれましたことに感謝いたします。

引き続き、皆様からのほっとする話題、みなさんの回りでの出来事など、県酪だよりに掲載してみましよう♪